

# 継承され続ける馬文化

十勝では今も、草ばん馬、馬追い、流鏝馬（やぶさめ）など、馬文化を継承する行事が各所で催されています。

## ばんえいの原点、草ばん馬 「鹿追町競ばん馬競技大会」

ばんえい競馬のルーツとなったのは、農民たちが自慢の農耕馬を競わせた「草ばん馬」。神社や地域のお祭りで開催されたことから「祭典ばん馬」とも呼ばれ、今も北海道・東北各地で盛んに行われています。

十勝で祭典ばん馬として古い記録があるのは、明治四十一年に始まったとされる音更町東土幌神社の祭典余興。このほか上土幌、土幌、浦幌、本別、足寄、池田の各町でも開かれています。現在、鹿追町のみで存続しています。それが毎年夏に鹿追町ライディングパークで開催される「鹿追町競ばん馬競技大会」です。同大会には道内各地から集まった精鋭たちに加え、帯広競馬場のばん馬も出場。昔ながらのU字コースで砂塵を舞い上げながら白熱のレースを繰り広げ、詰め



一斉にU字コーナーに飛び込む人馬。(写真は平成27年、第54回大会の様子)

かけた地元の家族連れや、ばん馬ファンを沸かせます。大人たちが交じって、少年ジョッキーが果敢に馬を追う姿が見られるのも、草ばん馬の面白さ。かつて草ばん馬がプロ騎手の登竜門だったように、ここから明日のジョッキーが誕生するかもしれません。このほか、ポニーばん馬レース、速歩競走、駆歩競走、さらに全国でも珍しい二輪馬車をひく繋駕速歩競走なども行われています。

## 今や、冬の十勝の風物詩 十勝牧場の「馬追い運動」

音更町の（独）家畜改良センター十勝牧場では、毎年一・二月の厳寒期に「馬追い運動」が行われます。冬の運動不足解消と妊娠馬の難産防止のため、百頭を超える重種馬たちが走路を疾走。中でも大きなお腹を抱えた妊娠馬が一团となって雪を蹴散らしながら走る姿は壮観です。近年は口コミで大勢の見学客が訪れるようになり、十勝の冬の風物詩として、全国的な注目を集めています。



雪けむりをあげて駆け抜ける馬たち。

## ドサンコ流鏝馬で豊作祈願 「帯廣神社流鏝馬奉納」

帯廣神社の秋季例大祭では、五穀豊穣や無病息災を祈願して、ドサンコによる流鏝馬が奉納されます。これは平成二十二年に帯廣神社鎮座百周年を記念して始められたもので、十勝どさんこ弓馬会が主催。十勝内外から射手を集めて行われます。

鎌倉時代の上級武士の装束をまとった射手たちは、走る馬上から的を射抜き、人馬一体の技を披露。古式ゆかしい行事に、境内は肃々とした空気に包まれます。



帯廣神社境内の特設馬場で行われるドサンコ流鏝馬。

## 帯広競馬場に若駒が結集 「全道祭典ばんば1才馬決勝大会」

年に一度、北海道内の各地区から選抜された1才馬が、帯広競馬場に結集。北海道鞍用馬振興対策協議会の主催による「全道祭典ばんば1才馬決勝大会」が開かれます。その重量は、牡350キロ、牝330キロ。本レースと同じ200メートルの本走路を使って、全道一を競います。

平成27年度は11月7・8日に開催。優勝馬の予想大会も実施され、的中者には抽選で景品が贈られました。



ばんえい競走馬の卵たちが、帯広競馬場で競い合う。



お弁当を広げながら間近でレースを楽しめるのは、草ばん馬ならではの。



ポニーばん馬レースでは、ポニーとは思えない迫力に観客も大興奮。